



いふだより

このたよりは、尾張旭市内の小中学生の子をもつご家庭や、**第3号**
教職員のみなさん、地域の方に向けて発行しています。

スクールソーシャルワーカーが 尾張旭市に配置されました

スクールソーシャルワーカー（SSWr）とは、社会福祉の専門的な知識、技術を活用し、問題を抱えた児童生徒を取り巻く環境に働きかけ、家庭、学校、地域の関係機関をつなぎ、児童生徒の悩みや抱えている問題の解決に向けて支援する専門家です。そして、これらの活動をスクールソーシャルワーク（SSW）と呼びます。

（文部科学省『生徒指導提要』平成22年3月より）

【本市SSWrの紹介】

- 水野みち代先生
- 原則月曜日と水曜日に各校を巡回
- 教育相談や家庭訪問を実施
- ※他の曜日にも相談に応じる

困っている子ども

- ・不登校
- ・暴力行為や非行
- ・愛着障がい
- ・いじめ
- ・児童虐待
- ・学習意欲の低下など

SSWrが関わると…

福祉的な視点

- ・家庭生活の課題
- ・親子関係の課題
- ・養育態度の課題
- ・本人の発育の課題
- ・人間関係の歪み
- ・学校・地域風土の課題
- ・貧困問題 など

直接的支援・間接的支援(SSWrの役割)

- ・困っている子どものところへ家庭訪問して、本人や保護者と相談したり助言したりして、問題の解決や改善を図る。
- ・学校や関係機関とでケース会議をし、連携・協働しながら支援体制を構築する。
- ・保護者や教職員に教育相談や経済的支援のサービスなどの情報提供をする。
- ・教職員等にSSWの研修をする。 など

市では昨年に続き、SSWrを有効に活用するため研修会（計8時間）を行いました。6月17日（金）には、講師に愛知県立大学の望月彰教授を招き、「子どもの権利と学校教育をめぐる基本課題」「SSW」などの基本的な考え方を学びました。そして、8月19日（金）の第2回では、講師に愛知県立大学の宇都宮みのり教授を招き、「SSWの概要」「SSWの展開プロセス」を学んだ後、「情報収集・整理シートの記入方法」や「ケース会議」について、班毎に演習を行いました。参加者からは「情報収集・整理シートは、見ただけで分かりやすく、情報を共有するには適切なものであると実感しました」との感想もあり、学校ですぐに役立てられる有意義な研修となりました。今後は今回の研修をもとに、関係諸機関と連携・協働し、SSWの機能が十分発揮できるようにしていくことが大切です。



保護者や地域の皆様にもSSWrの存在を知っていただきたいと思います。SSWrの働きかけにより、学校・家庭・地域・関係諸機関をつなぎながら、困っている子どもを取り巻く教育環境をよりよくすることができればと考えます。

「子育て講演会」を行いました

8月24日（水）に、渋川福祉センターで「子育て講演会」を行いました。昨年度に引き続き、瀬尾大（せお まさる）先生をお招きしての講演会でした。今年の演題は「自立させない親と自立したがる子ども～依存と甘えがもたらす子どものお客様化～」でした。講演の内容はとても具体的で分かりやすく、すぐにでも役立てられそうなものでした。以下で一部を紹介します。

「自立」とは、生きる力（社会適応能力）を身に付けることであり、

- ①最低限人に嫌われないための知識をもつ
- ②付き合いだと割り切る人間関係スキルをもつ
- ③少し頑張れば達成できそうな目標を設定できる
- ④理不尽さに対応できるスキルをもつ
- ⑤将来を見据えて継続できるスキルを身につける



の5つの力（スキル）を身に付けた状態のことです。そして、これらの力（スキル）を養うためには、子どもに責任を与え、一度や二度の失敗を受け入れる余裕が重要です。ただ、何度も失敗を繰り返す時は叱ってもよいですが、イライラするのは逆効果です。

親子関係は、依存と甘えがベースにある関係です。親から子への「価値観の押しつけ」が起きやすいのも、親子関係の特徴です。また、「親だから分かってくれるだろう…」「子どもならば気づいてくれるだろう…」といった言葉足らずによる「ミスコミュニケーション」が起きやすい関係でもあります。

そこには、親子間の歪みも存在します。親子間に愛着形成が不足したり共依存傾向が強かったりする場合は、子どもが自信をなくしたり自発的な行動ができなくなったりします。また、両親間の不一致の程度が強いと子どもがストレスを抱えやすくなります。

例えば、「監視」と「関心」について、監視は、親が子を信頼しておらず、親がストレスや不安を感じないための行為で、関心は、子どもが見てほしいところに着目し、興味をもって見たり聞いたりする行為です。「甘やかし」と「甘えさせる」や、「過干渉」と「羨」などでも、同様なことが言えます。

講演会の後半は自己分析を行いました。これが一番盛り上がりました。子育てにおいて「親自身のタイプを知ることが、子どもを客観的にかつ正確に見ることができ有効である」との考えから、参加者全員が自分の「エゴグラム」を作成しました。簡単な質問に答え、それを基にグラフを作成することで「エゴグラム」が出来上がり、自分のタイプを客観的に分析できます。「エゴグラム」では、どのタイプがよいとか悪いとかではなく、自分自身の特性をきちんと把握して子どもと向き合うことは、とても意味があることだということを教えていただきました。参加した方からは、子どもの「エゴグラ

ム」を作成し子育てに役立てたいといった感想が寄せられました。これも、瀬尾先生の「エゴグラム」の解説がとても分かりやすかったからだと思います。

「相手を変えたければ自分を変える」「自分が変われば相手もそれに伴って変わる」ことをメッセージとしていただきました。

この『いふだより』を読んで興味をもたれた方は、ぜひ、参加された方にいろいろと尋ねてみてください。

